



TITLE:

Unto this Last ヲ讀ム(二、完)

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. Unto this Last ヲ讀ム(二、完). 經濟論叢 1918, 6(4): 505-514

ISSUE DATE:

1918-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127363>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

文學博士

三浦周行

農會瑣言.....

法學博士

財部靜治

京都ニ於ケル舊時ノ鹽屋仲間.....

法學士

本庄榮治郎

營業稅ノ課稅標準(二)卷.....

法學博士

神戶正雄

Unto this Lastヲ讀ム(二)卷.....

法學博士

河上肇

職工組合論(二).....

法學士

河田嗣郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

文學士

銅直勇

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

法學博士

神戶正雄

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

法學博士

戸田海市

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(二).....

法學士

櫛田民藏

續獨逸經濟學界近況(二).....

文學士

米田庄太郎

物價卜割引歩合卜ノ平行.....

文學士

高田保馬

米國ノ戰時海運政策(二)卷.....

法學士

岸本熊太郎

米國ノ戰時租稅法(二).....

在米

阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(上).....

在米

山本美越乃

Unto this Lastヲ讀ム (二、完)

河 上 肇

三

余ガ本篇ノ前半ヲ本誌ニ公ニセシハ、大正六年四月ノコトニシテ、顧ミレバ今正ニ一ケ年ヲ經過セリ。實ハらすきんノ評傳中余ノ新タニ入手シ得タルモノ若干アリ、一應之ヲ通讀シテ稿ヲ續クント思ヒタルコトナレドモ、眼前ノ業ニ追ハレテ未ダニ果ス能ハズ。サレバトテ何時マデモ斯クテアルベキニ非ザレバ、茲ニハ簡單ニ Unto this Last ノ中ニ表ハレ居ル富ノ概念ヲ紹介シ批評スルコトニ依リテ、一先ゾ斯篇ヲ結び置カント欲ス。思フニ Unto this Last ト題スル論文ノ心髓ハ、らすきん自身其序文中ニ言ヘルガ如ク(註一)、富(Wealth)ナルモノニ就テ眞ノ定義ヲ與ヘ、カクテ經濟學ヲシテ其ノ眞ノ使命トスベキ點ヲ明カナラシメタル點ニ在ル。氏曰ク『斯論文ノ眞ノ心髓、ソノ中心ノ意味及ビ目的ハ、……余ノ信ズル所ニ依レバ平明ノ英語ヲ以テシテハ今日初メテ……富ニ就テ一個ノ正シキ定義ヲ與フルコトニ在ル。蓋シ斯カル定義ハ、經濟學ノ基礎トシテ絶對的ニ必要ナモノナノデアル。』氏ハ又『むねらぶるがえりす』ノ序ニ於テモ、富ノ

1) Unto this Last, Preface.

眞意義ノ闡明セラレ居ラザルコトヲ述ベテ、次ノ如ク言ツテ居ル。曰ク『何が富デアルカト云フコトニ就キ、最モ普通ノ目的ニ向ツテサへ、十分ニ正シキ見解ヲ有シ居ル者ハ、萬人ニ一人モ無イ。況ンヤ之ガ永遠ニ亘ルノ眞意義ヲ解スル者ニ至ツテハ、更ニ寥々タルモノデアル。』⁽²⁾以テ
 らすきんノ意ノ在ル所ヲ知ルニ足ル。

氏ノ意見ニ依レバ、眞ニ價值アル物が富デアル。而シテ凡テ物ノ價值ハ、其物が人生ノ眞ノ目的ヲ達スル爲メ如何ホドマデ役立ツヤ、ト云フコトニ依ツテ定マル。氏曰ク To be "valuable" is "to avail toward life". A truly valuable or availing thing is that leads to life with its whole strength (價值アルモノトハ人生ニ役立ツモノノ謂デアル。眞ニ價值アルモノ又ハ役立ツモノトハ、其全力ヲ以テ人生ニ貢獻スル所ノモンデアル。)⁽³⁾又曰ク Value is the life-giving power of anything (生命ヲ與フル物ノ力が價值デアル。)⁽⁴⁾茲ニ氏ガ avail toward life ト云フ life-giving power ト云ハル場合ノ life (生活、生命) ナルモノハ、動物トシテノ人間ノ生理的生存ヲ意味スルニ非ズシテ、道德的存在トシテノ人間ノ眞ノ生活ヲ意味スル。サレバ同一ノ物體ニテモ、之ガ使用法ノ如何ニ依リ、大ニ其價值ヲ異ニスベキデアル。譬ヘバ等シク物ヲ切ルノ及ナレドモ、以テ殺人劍タルベク以テ活人劍タルベキガ如シ。故ニ氏ハ物ノ價值ヲ以テ、物ソノモノニ固有セル性質及ビ之ガ使用法ノ如何ニ依リテ定マルモノト爲シ、カクテ『むねら・ぶるぎえりす』ノ中ニ於テハ、價值ヲ分ツテ二種ト爲シテ居ル。其一ハ、物ノ

2) Munera Pulveris, Preface.

3) Unto this Last, Essay IV.

4) Munera Pulveris, Essay I., sec. 1.

intrinsic value (固有價值) ニシテ、the absolute power of anything to support life (或物ガ人ノ生活ヲ支持シ得ル絶對的ノ力) ガ即チ其レデアル。例ヘバ一椀ノ飯ガ人ノ健康ヲ維持スルニ一定量ノ力ヲ有シ、一朶ノ花ガ人ノ目ヲ樂マシムルニ一定量ノ力ヲ有スルガ如クデアル。此等ノ力ハ、人ガ之ヲ用フルト否トニ係ラズ、其物ノ固有スル所ノモノデアル。然ルニ斯カル價值ガ實際ニ發揮セラレテ有效ノモノト爲ルニハ、其享受者ガ一定ノ狀態ヲ具備シ居ルコトヲ必要トスル。例ヘバ食物ニ對スルノ人ニハ消化力アルコトヲ必要トシ、花ニ對スルノ人ニハ觀賞力アルコトヲ必要トスルガ如クデアル。サレバ價值ノ中 effectual value (有效價值) ト稱スベキモノノ成立ニハ、先ヅ本來有用ナルベキモノノ生産サレ居リ、次ニ之ヲ使用シ得ル能力ノ生産サレ居ルコトガ必要デアル。物ニ固有ノ價值アリ、而シテ之ニ對スルノ人ニ之ヲ利用シ得ル力アル時、始メテ有效價值ノ成立ヲ見ル。而シテソノ有效價值ナルモノガ即チ富ナノデアル。(Where there is either no intrinsic value, or no acceptant capacity, there is no effectual value; that is to say, no wealth.) サレバ富トハ、『あん・つう・じす・らす』中ノ言葉ニテ言ハベシ the possession of the valuable by the valiant (力アル者ニ依ツテ價アル物ノ所有サレ居ルコト) デアリ、又 the possession of useful articles which we can use (吾々ノ使用シ得ル所ノ有用ナル物ノ所有) デアル。⁵⁾ 茲ニ物ノ use (使用) ト謂フハ、之ヲ人生ノ眞ノ目的ニ使用スルコトデアル。タトヒ之ヲ使用スルモ、人生ノ眞目的ノ爲メ之ヲ善用スルコトナクンバ、ソハ use ニ

5) Munera Pulveris, *Ibid.*

6) Unto this Last, Essay IV.

非ズシテ、useノ反對即チ from-use 又ハ ab-use (害用)デアル。物ハ善用サレテ始メテ富(wealth)トナル、善用サレタルモノハ財物ニ非ズシテ害物(三三)デアル。如何ニ高尚ナル物モ、高尚ナル人ト相俟ツニ非ザレバ、富トハナラス。(A horse is no wealth to us if we cannot ride, nor a picture if we cannot see, nor any noble thing be wealth except to a noble person. — Munera Pulveris.) 不健全ナル欲望ノ時々ノ目的物タルモノヲ富ト稱スベキデハ無イ、只正シキ欲望ノ恒常ノ目的物タルモノノミ始メテ之ヲ富ト稱スベキデアル。(The term wealth is never to be attached to the accidental object of a morbid desire, but only to the constant object of a legitimate one. — Munera Pulveris.)

之ヲ要スルニ、らすきんノ意見ニ依レバ、人間ノ道德的向上ニ貢獻スル所ノモノ、ソレガ即チ富デアリ、ソレノミガ只富ナノデアル。故ニ氏ノ見地ヨリスレバ、一國ノ富ヲ増加スル爲ニハ、有用ナル物ヲ作り出スノ必要アルト同時ニ、高尚ナル人ヲ作り出スノ必要ガアル。故ニ國ノ貧富ハ、只ソノ國內ニ存在スル物資ノ數量ニ依リテノミ秤量サルベキモノデハ無イ。氏乃チ論ジテ曰フ、³⁾ It is impossible to conclude, of any given mass of acquired wealth, merely by the fact of its existence, whether it signifies good or evil to the nation in the midst of which it exists. Its real value depends on the moral sign attached to it, just as sternly as that of a mathematical quantity depends on the algebraical sign attached to it. (茲ニ「定量ノ物資」獲得サレタルモノ「フトリセン」ニ、其物ガ之ニ依リテ圍繞

サレツツアル國民ニトツテ、果シテ財物タルヲ將タ害物タルヤハ、只物資ノ存在テフ事實ニヨリテノミ決定シ得ベカラザルモノデアル。ソノ眞實ノ價值ハ之ニ附セラルル道德上ノ符號ニ依リテ左右セラルルコト、恰モ數學上或ル分量ノ價值ガ、之ニ附セラルル代數上ノ符號ニ依リテ左右セラルルト、全然同ジ事デアル。富メル國トハ最モ善ク財物ヲ善用セル國デアル。而シテ富ヲ善用ストハ、之ヲ以テ吾人ノ道德的向上ニ資スルコトデアル。故ニ一步ヲ進ムレバ、富國トハ即チ德ニ富ムノ國デアリ、富者トハ畢竟德ヲ積ムノ人デアル。故ニ氏ハ言フ、That country is the richest which nourishes the greatest number of noble and happy human beings; that man is richest who, having perfected the functions of his own life to the utmost, has also the widest helpful influence, both personal, and by means of his possessions, over the lives of others. (最モ富メル國トハ高尚ニシテ幸福ナル人間ヲ最大多數ニ養フ所ノ國デアル。最モ富メル人トハ、自ラ人生ノ本務ヲ極度マデ實行シ、更ニ其德、其財ヲ以テ最モ廣ク恩澤ヲ衆ニ及ボスノ人デアル。)

四

らすきんノ富ノ定義ハ以上ノ如シ。而シテ余ハ一經濟學者トシテ、コノらすきんノ定義ヲ——藝術批評家トシテ其ノ前半生ヲ送り、經濟學ニ對スル素養ノ甚ダ乏シキコノらすきんノ定義ヲバ、其ノママニ受ケ入レントスルモノデアル。余ハ當テ富ノ定義ニ關シ、次ノ如ク述ベタコトガアル。曰ク、余ハ、人間ニ向ツテ外部ヨリ福ヲ齎ス物體ヲ總稱シテ、之ヲ富ト謂ハント欲ス。然

ラバ茲ニ福トハ如何ナルモノナルヤト云フニ、之ニ就テハ、蓋シ時代ヲ異ニシ社會ヲ異ニスルニ從ツテ、又同ジ時代同ジ社會ニ在リテモ、人ヲ異ニスルニ從ツテ、其見解同ジカラザルベシト雖モ、姑ク余ノ信ズル所ヲ述ブレバ、人間ガ道德的ニ向上發達スルコト、之ガ人間トシテノ眞ノ福デアル。故ニ余ノ意見ニ從ヘバ、人間ノ體^{カラダ}及ビ心ノ健全ナル發達ヲ助長シ、依ツテ以テ、直接間接ニ人間ヲバ道德的ニ向上發達セシムルノ作用ヲ爲ス物ハ、凡テ之ヲ富ト謂フ。今之ヲ詳論セズト雖モ、要スルニ余ハ知ラズ識ラズノ中、全クらすきんノ思想ヲ受ケ入レツツアル者デアル。

然ルニ富ヲ定義シテ斯ク言フ時ハ、多クノ人々ハ、ソハ經濟學ノ研究範圍ヲ無用ニ擴張スルモノナリトテ、必ズ反對スルデ有ラウ。乍併、余ノ信ズル所ニ依レバ、富ヲ定義スルコトヲ以テ同時ニ經濟學ノ研究範圍ヲ限定スルコトナリト理解シ來リシコトガ、根本ノ誤デアル。廣ク人生ノ立場ヨリ一般的ニ又根本的ニ富トハ何ゾヤト云フ問題ト、經濟學テフ特殊科學ニ於テ研究スル所ノ富トハ何ゾヤト云フ問題(又ハ世間ニテ普通ニ富ト謂フハ何ゾヤト云フ問題)トハ、之ヲ明白ニ區別シナケレバ勿ラスソデアル。現在ニ於ケル經濟學ガ富ヲ論ズルニ當リテ、之ヲ如何ナル種類ニ限定シ、又之ヲ如何ナル形式ニ於テ捕捉スルカト云フコトハ、廣ク人生ノ立場ヨリ何ヲ以テ富ト爲スカト云フコトト、自ラ別個ノ問題ニ屬スル。

抑々經濟學ナルモノハ、富ノ生産及ビ分配ニ就テ攻究スル學問デアル。故ニ其ノ研究ノ直接ノ

對象トシテ取り入レル所ノ富ハ、凡テ人間ノ力ヲ以テ或ハ生産サレ或ハ分配サレ得ル富ニ限ル。サレバ廣ク人生ノ立場ヨリ言ヘバ明カニ富ト看做サルベキモノモ、經濟學ノ研究範圍ニ屬セズ、從テ經濟學上ニ於テハ富ト稱セラレザルモノガ甚タ少クナイ。余ハ、經濟學者トシテらすきんノ富ノ定義ヲ受ケ入ルル爲ニハ、此點ヲ明カニスルコトガ最モ必要ダト信ズル。

先ヅ自由財ト稱セラルルモノ、即チ空氣ノ如ク、其存在量ガ人間ノ要求ニ比ベ比較的豊富ニシテ、何人モ自由ニ之ヲ利用シ得ルモノニ就テ考フルニ、此等ノモノハ別ニ之ヲ生産シ又ハ分配スルノ必要起ラザルガ故ニ、經濟學ノ研究ノ範圍外ニ置カレ、從テ又、經濟學ニテ謂フ所ノ富ニハ屬セザルモノト看做サレツツアル。乍併、空氣ガ經濟學上富ト稱サレズト云フ意味ハ、ソガ經濟學上ノ研究物體ト爲ラズト云フダケノ意味ナリ。若シ之ヲ解シテ、空氣ハ人生ニトツテ無用又ハ有害ナル物ナリトノ意ト爲サンカ、ソハ大ナル誤デアル。實際ニ於テハ空氣ハ人生ニトリテ極メテ大切ナル富ニテ、コレナクンバ人ハ一日モ其生ヲ保チ得ザルモノデアル。故ニ若シ其存在量ニシテ不十分トナランカ、吾人ハ之ガ生産ノ爲メ大規模ノ事業ヲ起シ、又ソノ生産サレタル空氣ヲバ社會ノ各員ニ向ツテ分配スルガ爲メ、種々ノ經營ヲ爲スノ餘儀ナキニ至ルベキガ、扱テ斯ク爲ル時ハ、空氣ハ始メテ經濟學上ノ富ト爲ルニ至ルベシ。乍併、空氣ガ此ノ如クニシテ新タニ經濟學上ノ富トシテ算ヘラルルコトト爲リタリト云フ事ハ、人生全體ヨリ見レバ、富ノ減少ニシテ其

ノ増加ニハ非ズ、幸福ノ減少ニシテ決シテ其ノ増加デハ無イノデアル。

多クノ學者ハ又、其物が交換賣買セラレ、從テ一定ノ交換價值ヲ有シ居ルコトヲ以テ、富ノ特徵ト爲シ、斯カル性質ヲ有セザルモノヲ富ニ非ズトシテ居ル。乃チ此標準ヨリシテ、前ニ述ベタル自由財ガ富トセラレザルハ勿論、人ノ如キモ、ソガ奴隸トシテ賣買セラルル限りハ富ト看做サルモ、自由人ニ至リテハ富ノ外ニ置カルルノデアル。乍併、奴隸モ尙富タルヲ得ルナラバ、自由人ハ一層富タラザルヲ得ザル筈デアル。否ナ仁人賢者ノ如キハ、立派ナル國ノ寶デアリ富デア。只ソガ經濟學上ノ富トセラレザルハ、人爲ヲ以テ生産サレ分配サルベキ性質ノ富ニ非ザルガ爲メデアル。蓋シ多クノ學者ガ交換賣買セラルルコトヲ以テ經濟學上ノ富ノ特徵ト爲シ來リシ所以ハ、今日ノ社會ハ、私有財産及ビ交換賣買ノ制度ヲ以テ經濟組織ノ原則ト爲セルノ結果、生産ハ交換ノ爲メニ行ハレ、分配ハ又交換ニ依リテ行ハレ、富ノ生産ト分配トハ、所詮交換ト離ルベカラザル關係ニ立テルガ爲メデアル。人爲ヲ以テ生産分配サレ得ルコトヲ經濟學上ノ富ノ特徵ト爲スニ想ヒ到ラザルガ爲ニ、偶々今日ノ經濟組織ノ下ニ於テ比較的最モ容易ニ人爲ヲ以テ生産分配サレツツアル富ノ特徴ニ過ギザル交換賣買ト云フコトヲ以テ、一般的ニ經濟學上ノ富ノ特徴ト爲スニ至リシマデノコトデ有ラウ。

猶近時ニ於ケル殆ド凡テノ學者ハ、人間ノ勞力テフ無形財ヲ以テ、富ノ中ニ算フ。乍併、人間

ノ場合ニ限り、人ト云フ有形物ヲ以テ富ト爲サズシテ、其ノ有形物ノ働キタル勞力ヲ以テ富ト爲シ、而シテ機械ノ如キモノニ就テハ、機械ト云フ有形物ソノモノヲ以テ富ト爲シ、其ノ有形物ノ働キタル機械ノ作用ヲ以テ富ト爲サザルガ如キハ、決シテ理論ヲ一貫シタル思想ト看做スコト能ハズ。而カモ多クノ學者ガ、此ノ如キ不純一ナル思想ニ甘ンジツアル所以ハ、人間ソノモノハ之ヲ人爲的ニ生産シ分配スルコト困難ナレドモ、人間ノ勞力中或種ノモノニ至リテハ、(妻子ノ勞力等ハ之ヲ除外ス)、其生産ハ兎モ角、少クトモ其分配ハ、或程度マデ人爲ヲ以テ之ヲ左右シ得ラルモノナル結果、人間ソノモノハ經濟學ニテ研究スル富ノ範圍外ニ置カルルニ反シ、人間ノ勞力ニ至リテハ、自ラ經濟學上、殊ニ分配論上ノ對象ト爲リツツアルガ爲デアル。此關係ハ、妻又ハ母トシテノ婦人ノ家庭内ニ於ケル勞動ガ、經濟學上ノ問題トナリ居ラザルニ反シ、工場勞動者又ハ被雇人トシテノ家庭外ニ於ケル婦人ノ勞動ガ、經濟學上重要ナル問題ノ一ト爲リツツアルニ依リテモ、之ヲ知ルニ足ル。コレ良妻賢母ノ『分配』ナド云フコトハ、今日眞面目ナル問題ト爲リ難ケレドモ、之ト異リ、女工ノ勞動ノ如キハ、或程度マデ甲ノ地ヨリ乙ノ地ニ移シ、或ハ甲ノ工場ヨリ乙ノ工場ニ移シ、以テ其分配ノ狀態ヲ變更スルコトヲ得ルガ爲デアル。サレバ若シ吾人ニシテ、第一ニ、經濟學上富ノ範圍ニ包含セラルモノハ、其生産又ハ分配ガ人爲的ニ左右シ得ラルモノニ限ルコト、第二ニ、或物體ノ生産及ビ分配ハ之ヲ人爲的ニ左右シ得ルコト困難ナリ

トスルモ、若シ其物體ノ作用ニシテ、或程度マデ、人爲的ニ之ガ生産又ハ分配ヲ左右シ得ラルル場合アリトセンカ、物體ソノモノハ經濟學上ノ富ニ算ヘラレザレドモ、其物體ノ作用ハ經濟學ノ研究對象ト爲リ、或程度マデハ富ト同一視セラルルニ至ルモノナルコトヲ了解スルニ於テハ、カノ無形財ヲ經濟學上ノ財ト爲スベキヤ否ヤノ問題ニ關スル煩瑣無用ノ議論ハ、凡テ之ヲ避ケ得ラルルノデアル。

之ヲ要スルニ、經濟學上ノ富ト然ラザルモノトノ間ニハ、決シテ截然タル限界アルニ非ザレトモ、而カモ之ヲ辨別スルニ就テハ、理論上明確ナル標準アルモノニテ、即チ人爲ヲ以テ其生産及ビ分配ヲ左右シ得ラルルモノハ之ヲ經濟學上ノ富ト爲シ、然ラザルモノハ之ヲ以テ經濟學上ノ富ニ非スト爲ス次第デアル。而カモ茲ニ注意スベキハ、經濟學上ノ富ニ非スト云フハ、人生ニトリテ富ニ非スト云フト、決シテ同義ニ非ザルコトデアル。此意味ニ於テ、經濟學上ノ富ハ富ノ一部ニ過ギザルト同時ニ、經濟學上ノ富ヲ増加スルコトノミガ必ズシモ人生ノ富ヲ増加スル所以デハ無イ。是ニ於テカ經濟政策ハ、其根據ヲ廣ク且深ク人生ニ置ク所ガ無ケレバ勿ラス。而シテ政策ノ根據ヲ廣ク且深ク人生ニ置カントスル時、吾人ハ先ツ廣ク人生ノ立場ヨリ、富トハ何ゾヤト云フ問題ヲ解決スルノ必要ガアル。其時らすきんハ、富ノ眞ノ定義ヲ初メテ平明ナル英語ニテ述ベ試ミタルモノハ即チ余ニ外ナラズト言イテ、カノ Unto this Last ヲ提供シ來ルノデアル。